

後

援

会

た

り

BTC後援会創立4年目を迎えて



会長 中山朝雄
(中目黒教会)

新型コロナウイルスの感染防止のため第75次年会が中止され6月に延期となりました。

また、卒業式も中止となり3月24日日本部で卒業証書授与式を内山代表の派遣祈禱をもって当教団の3名の卒業生(峯尾仰生兄、中尾敬一兄、竹内俊之兄)を送り出すという想定外の新年度出発となり、北九州、武蔵村山、姫路の各教会にそれぞれ任命されました。任地で主任牧師としてのご奉仕の上に主の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。

今年の任命で聖宣神学院長の

河村從彦先生が任期満了に伴い退任され、聖宣神学院運営委員の林正弘先生(船橋教会主任牧師)が就任されました。

河村先生は9年間にわたり新生BTCのために、神学生の主体性を尊重して恵みの神学を指導され、受け手の立場に立ったパスターマインドを身に付けた牧師の輩出に尽力いただきましたこと心より感謝しております。これからは学監として、林正弘聖宣神学院院长を支えていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、今年の新入生は林眞光兄(蒲田シオン教会)と金承柱兄(東京フリーメソジストみずほ台教会)の2名をお迎えしました。ご入学おめでとうございます。これからの学びと訓練の上に主の豊かなお導きがありますように、後援会一同祈りをもって応援させていただきます。

今年当教団出身の新入生は残念ながら与えられませんでした。私達は日々「今後の教団を支える献身者が興されますように」と心を合わせてお祈りしておりますが、どうして与えられないのでしょうか?主の御手が短くて与えられないのでしょうか。

「見よ。主の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くで聞こえないのではない。むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたの神との切りとなり、あなたがたの罪が

御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」

(イザヤ59章1〜2節)

このみ言葉が胸に刺さります。私達の側にその原因があるのかもしれない。祈り手である私達は本当に喜んで主に仕える霊をもって、志を持っている魂に対して範を示しているのか、また献身者にとつて教団は将来を託すことのできる拠り所となつていないのか、を問われているのではないかと思われま

目次

会長巻頭言.....	1
祈りの課題.....	1
BTC70周年感謝献金収支報告	2
中部地区世話人会報告.....	3
2020年度春季新入生紹介....	3
新聖宣神学院院长ご挨拶 ...	4
2020年第67期卒業生紹介.....	4
聖宣神学院教師陣に聞く.....	5
BTCの1日紹介.....	5
2019年BTC年末リポート報告...	5
推進委員からひと言.....	6
学監コラム.....	6
編集後記.....	6

TTC後援会」として独立した会計をもって運営していきたいと願っております。
そこで各教会がBTC後援会費として1教会あたり月額一口500円をご協力いただければ感謝です(詳細は後援会たより第8号に記載いたします)。何卒ご理解とご協力をいただきたくよろしく願います。



現在の後援会活動資金は、BTC一般会計から計上していただいておりますが、今後は「B

◆日々お祈りください

- ① 献身に導かれる方が与えられるように。
- ② 神学生の学びと訓練が祝されるように。
- ③ 教師、職員、スタッフが恵みによつて尊く用いられるように。
- ④ BTCキャンパスが教団施設として、ベテルハウスとともに尊く用いられるように。
- ⑤ 新しく神学院院長に就任された林正弘先生が霊肉共に祝され、守られますように。
- ⑥ 同窓生の先生方が尊く用いられるように。
- ⑦ 神学院の必要が豊かに満たされるように。
- ⑧ 後援会の役員、推進委員、全国の世話人が尊く用いられるように。

イムマヌエル
聖宣神学院後援会
<http://btc.jpn.com/>

BTC創立70周年感謝献金収支報告

二〇一八年から開始させていただきま
したBTC創立70周年感謝献金につつま
して、「BTC後援会たより第6号」の
誌面で、おかげいただきました献金総額
をご報告させていただきました。

今回、70周年記念事業としてBTC
キャンパスの整備とベテルハウスの備品
購入に使用させていただきましたのでご
報告いたします。

収入	項目	支出
18,633,130	感謝献金	
	※1ベテルハウス前土留めフェンス工事	2,970,000
	※2ベテルハウス什器備品購入	7,632,953
	※3食堂棟厨房改修工事	8,800,000
769,823	メンテナンス会計から繰入	
19,402,953		19,402,953



(60段階、正面ベテルハウス)



(左手に60段階、ベテルハウス前フェンス)



(60段階、モルタル被覆)

*1ベテルハウス前土留めフェンス工事



(ベテルハウス厨房設備)

*2ベテルハウス什器備品



(洗面スペース)



(1F 2F居室)



(食堂・ホール)



(動線を意識、中央にシンク、左手に食洗機)



(右手大釜、奥にガス器具)

*3食堂棟厨房工事・設備更新

中部地区世話人会

副会長 馬場満子
(中目黒教会)

昨年十一月、中部ブロックの世話人の方々にお集まりいただき、第2回BTC後援会世話人会を新会堂になった名古屋教会で開催致しました。

当日は信徒教育プログラムの一環としての信徒地区講座とタニアップして、中部地区の多くの方々にお集まりいただき、教会を超えてお交わりできたことを感謝しています。



(名古屋教会正面)

午後の世話人会には先生方を含め十二名の参加者が与えられ、それぞれの聖宣神学院と献身者



(世話人参加者、敬称略)

中原英彦(沼津シオン) 粉且(静岡)

下谷慈(金沢) 増田美和(名古屋)

高嶋典子(富山)

(事務局)

中山朝雄、馬場満子、池田光重

竹内俊之、内山勝・範子、河村従彦

を支える思いや教会での取り組み、またご自身の証し等お伺いすることが出来ました。当時姫路教会にインターンとして奉仕されていた竹内神学生(現牧師)もお迎えして献身の証しを伺う事も出来ました。

普段は地区以外で殆どお会いする機会のない信徒同士のお交わりは、とても貴重な互いの励ましのお機会となりました。場所は違っても、同じ主を見上げ、また教団の将来と教会の成長の為に心一つにして祈ることのできる幸いを全国の信徒のネットワークとして今後も広げていきたいと心から思っています。

今年は新型コロナウイルスの影響がどこまで続くか先の見え



信徒地区講座(討議の様子)

ない状況ですが、可能であればまた秋頃、他のエリアでの開催が出来たらと計画しています。地区別開催の折は皆様のお祈りとご協力をよろしくお祈いします。

2020年春季新入生紹介

全国の後援会世話人の方々を中心に、先生方はじめ多くの信徒の方々の祈りの結実として、今年度二名の新入生が神学院での学びと訓練に加えられることとなりました。三月に四名の卒業生を送り出しましたが神学生は総勢九名です。簡単なプロフィールを紹介します。

林眞光兄(正規コース)



蒲田シオン教会出身。
大学時代はK G Kに参加。

大学を卒業後、1年の社会人経験を経て献身。

金承柱兄(聴講)



東京フリーメソジストみずほ台教会出身。
タイで野尻孝篤先生と出会い、

BTCで学ぶように導かれた。
ご夫人は大竹真由美さん。

西日本ブロック(近畿教区、四国教区、沖縄教区)世話人会

注目

1. 場所 近畿教区にある教会(*後日お知らせします)
2. 日時 2020年11月7日(土)10:30~16:30(*日時は予定)
3. プログラム 午前:「信徒地区講座」(河村従彦師) 午後:世話人会

神学院院長ご挨拶



神学院院長
林 正弘

「私の兄弟、同労者、戦友であり、……私の必要に仕えてくれたエパフロデイト」
(ピリピ2章25節)

このたび、聖宣神学院院長の任命をいただきました。非常に重い務めであり、またキャンパスに居住しない形での奉仕となりますので、どれだけのことができるか分かりませんが、なし得る限りを尽くして務めを果たしたいと願っております。ぜひ、お祈りくださいますようお願い申し上げます。

聖宣神学院は、昨年、創立七〇周年を迎えましたが、ここに至るすべての営みは、主の恵みが前提ですが、全国の教会によつて支えられ、進められてきました。神学院は、牧師・宣教師などとして奉仕するように主に召された方々が、その奉仕のために整えられるところです。学ぶ神学生方は全国の教会から

送り出されてきます。学びを終えて遣わされていくのも教会です。教会なくして神学院なしなのです。その教会の一人ひとりの信徒の方々のお祈りと献げもによつて支えられているのが神学院です。毎月の聖宣神学院報のサポーターズの欄には、個人による「神学院サポート献金」が、教会団体による「神学院献金」と並んで報告されています。神学院を覚えて祈り献げてくださるお一人ひとりの存在は、昔も今もこれからも欠かすことはできません。

三年前にBTC後援会が設立され、支えてくださるお一人ひとりと神学院とのつながりがより強固なものとなったことを感謝しています。信徒の方々が主体的に運営に当たられ、世話人というシステムを通して各教会と神学院とのパイプもしっかりと整えられつつあります。後援会の体制がさらに充実し、全国の教会のより多くの方々が、神学院について理解を深め、同労者として祈り支えてくださることを期待しております。

よろしくお願い申し上げます。

(IGM出身卒業生)



中尾敬一

峯尾仰生

竹内俊之

(本部会議室での卒業式)



2020年第67期卒業生

「繋がりへの感謝」

峯尾仰生

いつも支えていただき、ありがとうございます。今、心にすることは「繋がりへの感謝」です。神さまに繋がることで深められる恵み。人との繋がりによる恵みの共有。学んだことが繋がっていく感動。主にある一つの大切な繋がりによつて、今の自分があるのだと感謝しています。今後ともよろしく願います。

(ヨハネ15章5節)

「初心を忘れず」

中尾敬一

BTCの為に祈りをありがとうございます。この度、主の恵みによりBTC卒業をゆるされました。インターン派遣された教会に、今度は牧師として任命を受けました。週報にいつも記載していた「神学生」を「師」と書き換える必要があったのですが、どうも落ち着かない思いをしました。そのうち慣れるのでしょうか。初心を覚えておきたいと思えます。

「BTCで変わった私」

竹内俊之

『いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。』(第一テサロニケ5章・16〜18節)の御ことばがBTC在学で得た信仰のエッセンス。社会人時代は常時、剃刀のように短気で支配者側だったが「愉快で穏やかで、癒される人」との正反対の温もりを持たた。これは決して捨てない真の私だから、

秋田郁美(日本フリーメソジスト町田福音)

*聴講終了

大村真実(都築ニュータウン)

チャペル)



教師陣に、聞く 旧約聖書の面白さを共有



立川教会
牧師 佐藤信行

神学院のクラスのために、いつもお祈りをいただき、心から感謝致します。昨年後期の「旧約概論」から神学院で授業を担当することとなりましたが、背後にあった皆さまのお祈りに支えられて感謝しています。

改めて神学院の教室に帰って来て、自らも初心に帰る良き機会となりました。神学生の皆さん

と共に聖書を学びながら、学ぶ楽しさとともに、新しい気づきが与えられる有意義な時となりました。

今回担当させていただいた「旧約概論」はどんな科目か、一言でまとめるのは難しいのですが、旧約をこれから学んで行くための一般的な基礎を扱う科目だと思っています。旧約の構成、地理的・時代的設定、内容の分析と整理、著者問題、神学的理解への橋渡しなど、おそろく扱おうと思えば非常に広範な領域を網羅することになる科目です。

し、これから学んで行くための基礎を考えると、さまざまな聖書知識も重要ですが、最も大切にしたのは、旧約聖書に対する印象、心象です。敬遠されやすい難解さは認めながらも、それだけではない、旧約聖書の豊かさ、深さ、面白さをどれだけ感じ取れるか、それが基礎になってほしいと願って、クラスを構成しました。

訳なく思いますが、目標とした旧約聖書の面白さを共有するには欠かせない時間だったように思っています。また課題レポートも決して軽いものではなかったのですが、各自が真摯に取り組んでくださったことも感謝しました。

今回は4名のクラスでしたが、このクラスのために背後に多くの祈りとサポートがあることを常に覚えながら担当させていただきました。その後の新型コロナウイルスによる甚大な影響を考えると、後期のクラスが最後まで守られたこと自体が、大きなみ守りの中にあつたことを改めて感じています。引き続きこの年も、お祈りにお覚えいただければ感謝です。



(石川家、ご家族)

入学して感謝なことは、学びが出来ることは勿論ですが、家族との時間が増えたということです。朝デイブーションが

「BTCでの一日」

正規コース二年 石川 順

終わり、娘(三才)が目覚ますとしばらく一緒に遊びます。それから家族三人で朝食を食べます。ゴミ出し当番の時は娘と一緒に手伝ってくれます。午前の授業とチャペルタイム(小札拝)が終わるとお昼ご飯。教師の先生や神学院のスタッフが全員集まって食事をします。キッチンボランティアの方が作ってくださる料理は絶品です。午後の授業が終わるとフリータイム。授業で出された課題などに取り組みます。家に戻ると夕飯まで娘と一緒に遊びます。そして夕飯を三人で食べた後また娘と遊びます。そしてお風呂

に入り、就寝。学びもさせて頂きながら、私が働いていた時にはなかった濃密な家族時間が与えられていることは本当に感謝です。イエス様が弟子たちを最後まで愛されたように、私たち家族も導いてくださっていることを感じています。



2019年BTC年末リトリート報告

2019年12月29日～31日で開催されましたBTC年末リトリート参加者の中から、今年も2名の方々が献身に導かれ、BTCに入学されました。2020年も開催予定です。献身の気持ちがある人もない人も、気軽にご参加ください!!



(年末リトリート集合写真)



(聖会第一夜)

地の利を生かして

推進委員からひと言



推進委員 館野純生 (神学院教会)

これまで神学院教会出身の推進委員として活動された元島康孝兄から引き継いで委員に加わりました。元島兄のようにリーダーシップをとれませんが、中山会長のようなビジョン

を持つのは困難ですが、何かしら地の利を生かした貢献できれば幸いです。

以前から神学院の食事の準備にご奉仕しているご婦人の方のことを聞いておりました。ある方は図書館司書として、また敷地内の清掃・植栽の手入れ、ペテルハウスの管理・運営と、個人あるいは教会単位で奉仕されている方々がいらっしゃいます。聖宣神学院教会は設立以来、神学院の施設を借用して活動してきました。恵まれた環境で信仰生活を送らせて頂いていることは大きな感謝です。今年3月

25日からウエスレーチャペルで予定されていた「教団ファミリー年会」の運営にお役にたれどと考えておりましたが、新型コロナウイルス対策のため年会は開催されませんでした。ところで、会堂で集会ごとにご利用してきたプロジェクトが昨年秋季より機能不全に陥り、年會を目的に新モデルに入れ替えることになっていました。先日の試写では昼間でも美しい画面を堪能しました。次の年会には全国から集まる先生や信徒の皆さんに、気持ちよくパワーポイントの資料や画像を見ていただけるものと期待しております。

◆ナタナエル

「にもかかわらざるの器たち」、次に取り上げるのは「ナタナエル」です。ヨハネの福音書1章と21章に出てくるだけ、傍系です。少なくとも弟子の中心とは考えられていません。しかし、傍系がイエスさまから賞賛されました。「見なさい。まさにイスラエル人です。この人には偽りがありません」。

学監コラム

にもかかわらざるの器たち

どうしてこのような人物が弟子に名前を連ねないのでしょか。よくわかりません。逆に、なぜユダは弟子に入っていたのか。これもナゾです。しかし、12弟子に名前を連ねていること自体、それほど重要でないのかもしれない。

は知らないほうがよいのです。自分から情報に首を突っ込むべきではありません。ナタナエルはヨハネの福音書21章でもう一度顔を出します。ペテロが回復される場面に弟子に入ったペテロ、弟子に入らなかったナタナエル、その場面

ペテロはいつも中心にいました。いたがりました。イエスさまが伝えたかったことは、ナタナエルみたいな生き方もあるのですよ、それでいいのですよ、ということだったかもしれません。

このような賞賛を与えられた人は、弟子の中にはいませんでした。ヨハネにとっては、ペテロやトマスと並んで、記述すべきと感じた「気になる」人物だったはずで

弟子グループに入らなかったことにこそ撰理的意味があったと解釈することもできます。つまり、入らなかつたことで果たすべき使命があったのではないか。守られることもあつたのではないか。知らないで済むこと

の場面で生きて来た生き方はそれぞれ恵みでした。それだけでなく、ナタナエルがペテロとともにその場面にいたことには意味がありました。おそろくペテロは、偽りのない生き方、真のイスラエルとは何かを学びました。

(学監 河村徒彦)

もうご覧になりましたか？
昨年各教会に配布された「VSDT」の感想を、聖書の学びを深めるための「HIT」の動画を、ぜひ一度ご覧下さい。



ホッとひと息

編集後記



企画担当から

15回目のBTC推進委員会も終え、この第7号をお届けすることができました。どうかこの「後援会たより第7号」も主の御用に用いていただけますように。

推進委員の方には遠くから片道2時間かけて参集する方もいれば、私も含め仕事帰りに加われる方々もあります。色々なテーマを検討し、今回も30分オーバー。でもいつも、疲れを覚えても、心が燃やされている恵みを覚えます。イエス様が傍らにいて下さるからですね。(Y・Y)

2020年5月1日 第7号
編集・発行人
中山朝雄 (後援会会長)
後援会事務局
〒226-0024
神奈川県横浜市緑区西八町町1194-2
※後援会についてお問い合わせは
下記までご連絡ください。
電話
03-3291-1308 (本部、中山)
メールアドレス
koenkai@btc.jpn.com